

安保教授を偲ぶ



安保教授は、1995年に総合政策学部を神戸三田キャンパスに開設する際には、我が国でも類を見ないヒューマン・エコロジーを視座とする新しい教育プログラムを構想し実現された。この4年間は学部長として精力的に活躍してこられた。大学院についても修士課程及び博士課程を設置、そして今年度がまさに大学院が完成するという年であった。

学部では斬新な試みを次々に実現された。大学院では、産官学民連携組織であるリサーチ・コンソーシアムを立ち上げられた。最近ではリサーチ・コンソーシアムに地域政策研究ネットワークを立ち上げられて、「Think Globally. Act Locally.」という学部の理念を身をもって示された。2002年には21世紀の情報社会に呼応してメディア情報学科の開設に尽力された。こうして神戸三田キャンパスに教育研究の新しい文化が生まれ、関西学院に新たな学風がもたらされてきた。

安保教授の恐らくは最後の文章となってしまった一文には、これからの総合政策学部のセカンド・ステージへの抱負を述べておられる。それは、国際感覚と問題解決能力をもつ高度専門職業人を育成する専門職大学院、ポリシー・スクールの構想である。研究者を養成する大学院と同時に、政策は実社会にこそ存在し問題発見から問題解決への道を自ら探り、その道を拓き進む過程において必要とするディシプリンを発見的に獲得していく総合政策という学問体系の方法を明確に据え、国際感覚と総合力をもつ政策プロフェッショナル、経営プロフェッショナルの人材を養成することは、平和と紛争、飽食と貧困、繁栄と環境悪化という地球規模に二極化する現代社会においてますます必要であると繰り返し述べてこられた。

学問の分野では、人権問題、差別問題の社会的重要性を早くから指摘され、先駆的な業績によって多大な貢献を成し遂げられ、まさに関西学院の「Mastery for Service」の精神を示されてきた。

ご家族の悲しみに謹んでお悔やみを申し上げますと共に、総合政策学部ひいては関西学院にとっても大きな悲しみであり、ここに衷心から哀悼の意を表するものであります。

関西学院大学総合政策学部長 福田豊生